

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年1月29日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873100648		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム たんぽぽ	ユニット名	西館
所在地	〒319-0101 茨城県小美玉市橋場美20-1		
自己評価作成日	平成24年8月8日	評価結果 市町村受理日	平成25年1月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0873100648-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年10月24日	評価確定日	平成25年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

毎日食べている、食事が美味しいと入居者や家族から評判です。 毎日家族的な雰囲気楽しく過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

医療機関や福祉施設を幅広く展開している法人が、地域密着型サービスに対するニーズの高さを把握し、法人関連事業所に隣接して設立した事業所である。 地域住民からの野菜のお裾分けがあるほか、職員や利用者が地域住民と茶飲み話をするなど、日常的に地域とオープンな交流が行われている。 管理者は、「職員を大事にすることが運営の要」という信念に基づき、地域密着型サービスのあるべき姿を追及しながら利用者本位の支援に努めている。 職員は、和気あいあいとした家庭的な雰囲気で利用者に接している。
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を掲げ、生活支援と個人支援を念頭に実践につなげていきます	職員で話し合っ決めて「地域との交流を大切に」や「家庭的な雰囲気の中で」などのキーワードが入った理念を掲げ、事務室に掲示するとともに朝礼時に確認している。 職員は利用者と散歩の際に、地域住民と挨拶を交わしたり住民宅に立ち寄りして交流するとともに、事業所が和気あいあいとした雰囲気となるように支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアを積極的に受け入れたり、近隣の友がいつも遊びに来られ施設の行事に参加いただいています 入居者と地域の方との話し合いも大いに行っている	職員は利用者が知人や友人宅で茶飲みをしたり、利用者の知人や友人が事業所へ気軽に来訪できるよう支援している。 オカリナや民謡などの地域ボランティアが来訪し、利用者と交流している。 事業所が開催する七夕祭りや運営母体関連施設と共同で開催する祭りに地域住民を招待している。 職員は地域の資源回収活動に参加し、地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の日常支援を第一に考え、ミーティング、ケア会議の時には必ず話題にし意識を高めるように全職員が理解できる実践につなげている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市の職員、民生員、地域住民、ケアマネージャ、入居者家族等の構成で2ヶ月一回開催し、実情や問題点を話し合い、又行政よりの新しい情報を得るなど、サービスの向上に活かしている	家族等の代表や市担当者、民生委員、地域住民が参加する運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、事業所の運営状況や利用者・家族等から出た要望事項、外部評価結果などを報告している。 参加者から出た地域の要援護者に関する情報を基に、管理者は関係機関と連携して要援護者へのサービス開始につなげている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、認定調査を通じて、又、包括支援センターや社協との関わりを大切にコミュニケーションを図れるよう努めている	管理者は市役所に直接出向き、市担当者とできるだけ顔を合わせてコミュニケーションを図り、事業所のサービスに取り組む姿勢などを発信するように努めている。 管理者は利用者の生活歴を地域包括支援センターに問い合わせるなど、利用者本位の支援に向けて行政との連携に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニット毎に担当職員がきめ細かく注意深く拘束ゼロに取り組んでいる	管理者は身体拘束ゼロを方針として掲げるとともに、年1回の研修により、全職員が身体拘束の内容や弊害について理解するように努めている。 管理者は家族等との話し合いにおいて、身体拘束をしないケアのリスクやその低減について説明している。 職員のきめ細かな見守りにより、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、利用者に不潔行為が見られるケースでは、一時的につなぎ服を使用する場合がある。 つなぎ服の使用にあたっては、家族等からの同意書や経過観察記録、代替手段検討記録を残すまでには至っていない。	つなぎ服の使用にあたっては家族等の同意書や経過観察記録を残すとともに、「切迫性」や「非代替性」、「一時性」の3つの要件を満たしているか慎重に検討し、記録に残すことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連施設や法人の定例会議やGH会議には話し合う、機会を設け、ホーム内でも見過ごされないように防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性を関係者と話し合い、利用者の人権を脅かさないよう日々介護に活かし支援している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時重要事項説明書で理解をいただけるよう十分に説明を行い理解納得をはかっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見箱の設置をもうけ説明書の明記している 職員には十分に話し合う機会を設け運営に反映させている	事業所便りを通じて意見や要望を表せる場として運営推進会議があることを伝え、会議への出席を呼びかけている。 重要事項説明書で苦情相談受付窓口の明示や玄関に意見箱を設置しているほか、家族等の面接において意見や要望を出し易い雰囲気づくりをしているが、利用者や家族等から具体的な意見等を吸い上げるまでには至っていない。	「利用者や家族等は意見や要望を出し難い」という前回の外部評価結果のコメントを踏まえ、無記名のアンケートの実施を再度目標達成計画に掲げるなど、利用者や家族等の意見や要望の吸いあげに向けた取り組みが望まれる。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や職員会議の折には意見や提案を聞く機会を設け、申し送りノートに記録し運営に反映させる	管理者は朝礼や毎月の全体会議において職員に意見や提案を出すように働きかけるとともに、勤務体制に関する要望を受けて職員配置を工夫するなど、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営母体である法人で月1回定例会を実施し、意見や要望などの話し合う機会を設け、職員待遇への反映や向上心を持つて働けるような配慮対応に努めている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時2ヶ月を重点的に施設内で指導してから採用を決定し研修にも参加している又、日常的にも学ぶ機会も作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	施設内研修や勉強会を行なうと共に事例検討を通して介護サービスの質の向上に取り組んでいる 又、他に施設にも研修に向上している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時から利用者及び家族との信頼関係を築いていけよう面接し、会話を通じて不安を取り除くよう努力している 又要望等にも耳を傾けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは十分な話し合いを行い不安を取り除き要望など家族の思いをよく理解し、安心のできる関係に近づけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する段階で本人と家族の必要としているサービスにお答えできるように、又、他のサービス内容も念頭に入れて対応している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安心して安全に楽しく暮らすためにはどのようにしたらよいか、自分でできることは自分で、できないことは支援し、又、教えていただくことも多くあるのでお互いに支えさ支えられる総合関係を築けるよう努力している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の折りや面会にいらっしゃれないご家族にはお手紙で写真や生活の様子など近況の報告をして、常に安心していただけるよう配慮して共に支えあえる関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりがその人らしく暮らせるよう自分でのびのびとした雰囲気を作り見守りを行ない、訴えに耳を傾け気持ちを受け止めて、馴染みの人、馴染み場所が断ち切れないよう努めている	職員は利用者の知人や家族等との日常的な交流や遠方に住む知人や家族等への電話かけを支援するとともに、馴染みの理・美容室を継続して利用ができるよう付き添っている。 日常的な支援の中で把握した馴染みの人や場所を記録として残すまでには至っていない。	利用者との係わりの中で把握した利用者のこれまでの人間関係や社会との関係に関する記録が、「思いや意向の把握」と同様に支援に向けた基礎資料となることを再認識し、把握した事項を記録して全職員で共有することが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有の場所での入居同士のトラブルには特に注意して見守っている 安心して生活ができる環境づくりに取り組んでいる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気で入院された方にも時々お見舞いに行き、情報交換を行い、又、事情により退去後もより良い関係を保ち、何でも話せる雰囲気作りに取り組んでいる		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや意向を日々の会話の中で把握するよう努めている 又、家族の意向に添ったサービスができていないか常に話し合いを行い検討している	職員は意思疎通が困難な利用者も含め、アセスメントや日々の利用者の表情や言葉、家族等からの聞き取りを通して思いや意向の把握に努めているが、明確な記録として残すまでには至っていない。	利用者や家族等の思いや意向の把握がケアの出発点であることを再認識するとともに、把握した思いや意向を記録して全職員で共有し、介護計画につなげていくことが望まれる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人も忘れかけている生活歴や馴染みの暮らし方など家族とも話し合いの中から深り、日々の信頼関係を築きながら時間をかけて把握するよう努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムやその人らしい暮らし方う理解し生活の様子はケース記録に、状態は申し送りノートに記録し、総合的な把握に努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がその人らしく暮らすために、できることと出来ないことを本人と家族にその要望を聞き、満足又納得してくださるよう現状に即した計画作成に全員で取り組んでいる	利用者や家族等の意向及び医療関係者からの情報に基づいて計画作成担当者が介護計画案を作成し、その後介護支援専門員や管理者、職員が参加するケアカンファレンスで話し合っ介護計画として確定している。 3ヶ月から6ヶ月毎のモニタリングや評価に基づいて介護計画を見直すとともに、介護度の変更など利用者の状態に変化が生じた場合には随時介護計画を見直している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録をケース記録に記録し、生活の様子、食事摂取量、排泄などは別の記録に記録している情報は毎朝の朝礼で話し合いをし実践につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体の法人である病院の医師や看護師との医療連携や回診や外来受診、訪問診察など、その人のニーズに対応して馴染んだ環境の中で、最後まで安心して過ごせるよう支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで日頃より連携を取れるよう働きかけたり、近隣の友人やボランティアの受け入れを行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回の主治医の回診や月2～3回の外来受診の折に検査等も行っているほとんどの入居者が基礎疾患を抱えているので、病状の急変に対応し、安心して生活ができる体制になっている	職員はサービス提供開始時に利用者のかかりつけ医を把握し、利用者や家族等の要望にそったかかりつけ医や専門医への受診に付き添っている。家族等が付き添う場合には、職員が医療情報を記した書類を家族等に手渡すとともに、受診結果を聞き取り、申し送りノートに記録して全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関連病院に看護師との健康管理や受診の相談を行っている週一回の来館の折には記録等もしていただいている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はいつでも面会でき、又、家族がいつでも来られるようにし、馴染みの関係が継続できる病状の交換や説明やアドバイスを受け、混乱なく過ごせるような体制をそなえている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期は関連の病院と連携随時できる 又、家族と密に情報交換を行ない、このホームはこのよう協力ができることを十分に説明しながら支援に取り組んでいる	重度化や終末期においては、運営母体関連施設に移ってもらい、その施設で介護するという方針であるが、方針を明確に記述した重度化や終末期における事業所方針を定めるまでには至っていない。	事業所の方針と利用者や家族等の思いがずれたまま重度化や終末期を迎えることのないよう、事業所として「できることとできないこと」を明文化した方針を作成し、利用者や家族等に説明して同意を得ることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに沿って実行している 職員全員で演習を行い実践力を身につけている（急変時は何度でも実行している）		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	関連施設とはいつも交流を行なっている 訓練にも参加したいが、独自ありの火災訓練と避難訓練を行なっている（消防立会いのもと） 7月28日年2回	年2回消防署立会いのもと、夜間想定 の避難訓練や消防設備点検を実施している。 訓練結果を記録に残しているが、避難完了時間など課題を記録するまでには至っていない。 運営推進会議を通じて災害時における地域との協力体制の構築について話し合っているが、実現するまでには至っていない。 災害に備えて食料や飲料水、毛布、懐中電灯などを備蓄している。	避難訓練を通して避難完了時間や避難誘導體制などに関する課題の把握に努め記録に残すとともに、次回に活かすことを期待する。 災害時における地域との協力体制を早期に構築することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調にならない言葉かけを心がけ、職員間で確認している 毎日の3分朝礼にも必ず確認し合っている	管理者は職員が「・・・してはダメ」などの命令口調にならないよう朝礼時や現場において職員教育をしている。 職員は排泄支援の際に、排泄に関する直接的な表現を避けた言葉遣いをするように努めている。 年1回個人情報保護に関する研修を実施している。 個人情報のファイルを事務室の机上に保管しており、人目に付かない場所に保管するまでには至っていない。	個人情報漏洩防止のためにも個人情報に関する書類は、人目に付かない場所に保管することが望まれる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のもてる力を引き出せる自立支援を心がけている 本人が自己決定できる場面を作る (自室の清掃、洗濯たたみ、シーツ交換、身の回りのことなど)			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの一日の流れは決まっているが、その人の状態やペースに合わせて柔軟なケアを心がけ支援をしている (本人の希望を優先しているが、入居者同志との和も考えながら)			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの希望を取り入れた理・美容の支援をしている 又、衣服や化粧品野買物も依頼され、本人を買物に連れ出す支援もしている			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は全てこのホームで作っている衛生上、厨房には入れませんが、後片付けやテーブルふき、お茶入れなどは一緒に行なっている	法人関連事業所の栄養士が作成した献立にそって食材が配達されるシステムとなっているが、職員は地域住民からのお裾分けに応じて料理を追加したり、おやつ作りや行事食、外食を取り入れるなど、食事を楽しめるよう工夫をしている。 利用者は職員の支援を得ながら食材の皮むきや配膳、下膳などを行っている。 食事支援を担当する職員を除き、ほかの職員は利用者と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立をきちんとカロリー計算をしているなどバランスのよい野菜と魚が主体の食事作りをしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き（義歯のため）ポリデントを使用し、又うがいを見守りや声かけして必ず行っている（週一回口腔ケアを連携歯科医にしている）		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを職員が把握している 出来る限りトイレでの排泄ができるよう支援している（おむつの方は随時支援している）	職員は個別支援の中で利用者一人ひとりの排泄パターンや「怒りっぽくなる」などのサインを把握してトイレ誘導し、トイレでの排泄を支援するとともに、利用者の排泄状況を観察しながら、おむつからリハビリパンツに変えてみるなどの工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かす機会を多く作り、便通の良い食物繊維を多く含むや野菜食を多く取り入れた食材を使用するよう取り組んでいる (水分補給も欠かせない)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に回の入浴を実施しているが、夏など汗の多く出る季節には随時シャワー浴ができるよう支援をしている (西館はシャワー機械浴を設置使用している)	週2回の入浴を基本としているが、入浴日以外に入浴の希望があった場合は、入浴日が異なる他ユニットでの入浴が可能となっている。 勤務体制の都合により午前中の中の入浴となっており、好きな時間帯に入浴を支援するまでには至っていない。 職員は菖蒲湯や柚子湯などのほか薬湯にするなど、入浴が楽しみなものになるよう工夫している。	利用者の好きな時間帯に入浴ができるよう、実現に向けた話し合いが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夏季は暑くて外に出られません、散歩や廊下での歩行訓練を実施し、一日のリズムを整え安眠できるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の処方箋をファイルしており、職員全員が内容を共有している 服薬時は口の中に入れ服薬を確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりのできることとできないことを表にまとめて、職員全員で確認し、できないことができたときの喜びを味わって頂いている 又、大好きなおやつなども用意して、みんなで讚えあっている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体の状態や天候など把握して、茨城空港に少人数で何回にも分けて見学に行った 高齢者の方も他から沢山来ており、話もしたり、小さなことから始めているが、こんなに喜ばれた事はありません 今後とも色々な所に行けるよう支援していきたい	職員はほぼ毎日事業所周辺の散歩、近くのスーパーやコンビニエンスストアへの買い物を支援している。 リフト車の利用により、歩行困難な利用者も含めて3ヶ月に1回程度花見や観光などの外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	このホームでは金銭管理は家族で行ってくださっている 又、独居の方は事務所の経理担当者が管理をしているので安心です 金庫もないので、ここでの管理は不安であるが、出かけるときは事務から本人に手渡し自由に使い、残りは又管理をお願いしているシステムをとっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎはとても多い 又、本人ができないときは、ホールに電話があるのでいつでもかけられるよう支援している ことらからの手紙は現在利用者一人にとどまり、他の利用者は管理者が代筆して出している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中、玄関及び居室の鍵は一切かけておらず、すべてオープンである 共有できるホール、トイレも車いすでも行けるよう大きく、又カーテンでプライバシーも守られている 窓の外にはいつも花が咲き、庭には十種以上の木が植えてあり、春には桜、秋は柿が実り、春先にはタラの芽、蕨など食べられる野菜が沢山あり入居者も楽しみにしている	外デッキ付きで小上がりの畳敷き空間を設けた南向きの共用空間には、キンモクセイなどの季節の草花や絵画を飾っているほか、事業所で飼っている犬が外デッキで寝そべっているなど、ゆったりとした和気あいあいで家庭的な雰囲気の共用空間となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前には椅子が置いてあり、食堂とホールが一体二になっており、自由な交流になるよう見守っているため、に入居者同士のトラブル等はありません		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも整理整頓されており、低床の介護ベットチェスト、温水の出る洗面所も設置してある 家族の写真や馴染みの品も自由に持ち込める心地よい居室であり、楽しく日常生活が過ごせるよう支援している	職員は居室に使い慣れた物品を持ち込んでもらえるよう利用者や家族等に働きかけており、利用者は使い慣れた目覚まし時計や仏壇、棚などを持ち込んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の残存能力を支援している 入居者が日常行なっていることは、「手や口を」極力ださず見守り、又、「一緒になって行うよう、自立生活がいつまでも送れるよう工夫している		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームたんぼぼ

作成日 平成25年1月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	つなぎ服の使用にあたっては家族等の同意書や経過監査記録を残すとともに、切拍性、や非代替性、一時性の3つの要件を満たしているか慎重に検討し、記録に残すことが望まれる。	今後は家族等の意見を重視しつなぎ服の使用を考えます	つなぎ服の使用はGHたんぼぼ、全職員にホーム内の 会議置いて検討し徹底する	約6ヶ月
2	6	「利用者や家族等は意見や要望を出し難い」という前回の外部評価結果のコメントを踏まえ、無記名のアンケートの実施を再度目標達成計画に掲げるなど、利用者や家族等の意見や要望の吸いあげに向けた取り組みが望まれる。	今後の無記名のアンケートがどすれば記入率が上がるか考えます	GHたんぼぼ、に面会に来る家族等に出来るだけ多くの方に記入して貰う用、GHたんぼぼ新聞などに記載する	約12ヶ月
3	8	利用者との係わりの中で把握した利用者のこれまでの人間関係や社会との関係に関する記録が、「思いや意向の把握」と同様に支援に向けた基礎資料となることを再認識し、把握した事項を記録して全職員で共有することが望まれる。	今後はホーム内の利用者や家族等の意見聞き日常的な交流を考えます	GHたんぼぼ会議で全職員で検討し早急に実施します	約10ヶ月
4	9	利用者や家族等の思いや意向の把握がケアの出発点であることを再認識するとともに把握した思いや意向を記録して全職員で共有し、介護計画につなげていくことが望まれる。	利用者や家族等の思いや意向が出発点を再認識し介護計画につなげて行く	ケアマネと相談し介護計画を検討する	約8ヶ月
5	12	事業所の方針と利用者や家族等の思いがずれたまま重度化や終末期を迎えることのないよう、事業所として「できることとできないこと」を明文化した方針を作成し、利用者や家族等に説明して同意を得ることを期待する。	重度化や終末期等を利用者の家族等に如何なるかを説明します	今後は入居する際、家族等に文章で説明し契約をとる	役3ヶ月
6	13	避難訓練を通して避難完了時間や避難誘導体制などに関する課題の把握に努め記録に残すとともに、次回に活かすことを期待する。災害時における地域との協力体制を早期に構築することが望まれる。	避難訓練を通して避難完了時間や夜間想定など職員や消防署などと交え考え行きます	夜間想定では2人の夜勤者の為近所の施設や住民の協力お願いし訓練を多く実置します	役10ヶ月
7	14	個人情報漏洩防止のためにも個人情報に関する書類は、人目に付かない場所に保管することが望まれる。	今後は個人情報漏洩防止のために注意し保管します	ホームの管理者が責任をもって保管する	役3ヶ月
8	17	利用者の好きな時間帯に入浴ができるよう、実現に向けた話し合いが望まれる。	利用者の好きな時間帯の入浴は職員人数限り有検討します	利用者の好きな時間帯の入浴は職員人数限り有前向きに検討し利用者の万足が得られる用どりようくします	役12ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。